

ホタテガイ採苗速報

稚貝採取を早めに行い、体力のある貝を作しましょう

1 ホタテガイの付着状況

7月5～9日に東湾で行った第2回臨時付着稚貝調査の結果は、図1～3および別表1のとおりです。

ホタテガイ稚貝の平均殻長は、東湾の間引き・袋替えをしていないもので5.72mm、間引き・袋替えをしたもので6.09mmでした。

また、東湾で間引き・袋替えをしたものの場合、1分5厘のフルイに残る稚貝の割合は82.7%、2分のフルイに残る割合は49.5%でした。

2 今後の見込み

稚貝採取について、東湾で2分のフルイに8割残るのは来週中盤からの見込みです。

ただし、付着数や間引き・袋替えの有無、今後の水温の動向によって成長に差が生じるので、稚貝の成育状況を見ながら作業を進めてください。

平年より稚貝のサイズが大きく、ムラサキイガイの付着が多いこと、また夏季高水温の危険性も踏まえて、稚貝採取を早めに行い、体力のある貝を作しましょう。

稚貝採取時の注意事項は次ページにあります。

- ・ 下線は平均殻長
- ・ ()内は間引き、袋替え後の値

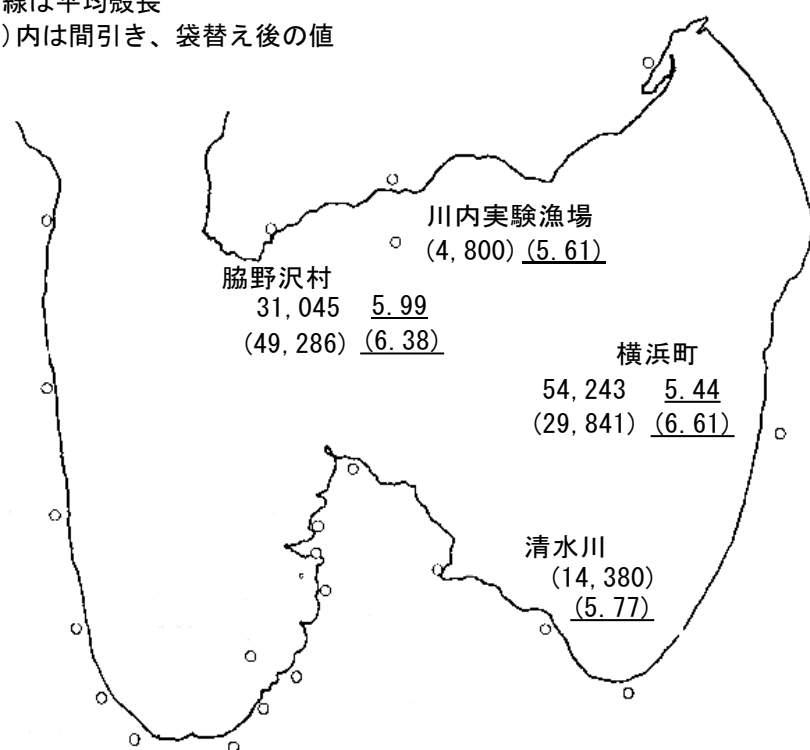


図1 調査地点毎の付着数 [単位: 個/袋、(平均殻長mm)]

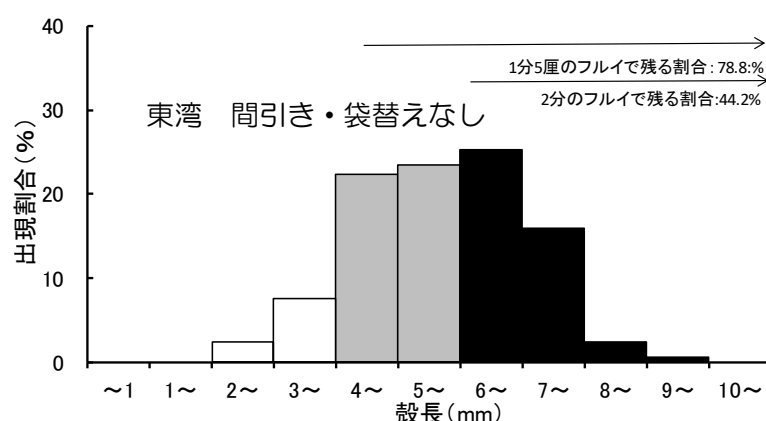


図2 間引き・袋替えなしのホタテガイの殻長組成 (東湾平均)

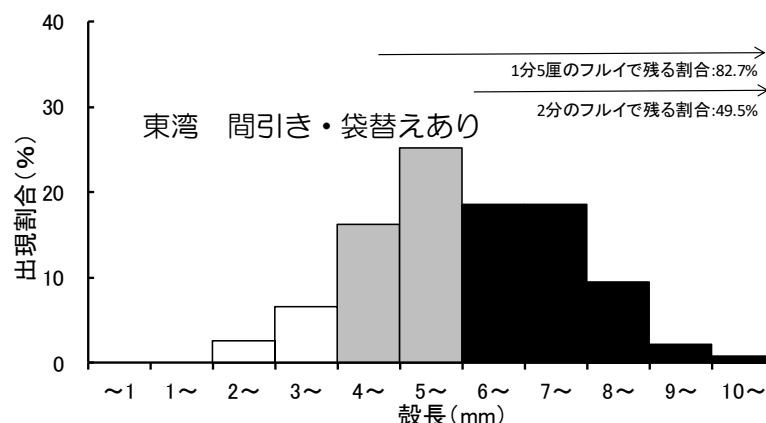


図3 間引き・袋替えありのホタテガイの殻長組成 (東湾平均)



3 稚貝採取時の注意事項

(1) 稚貝を大切に扱いましょう。

○作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。

○高水温時にはタライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げるようにしましょう。水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になる危険性があるので、タライや水槽の水はかけ流しにするか頻繁に交換しましょう。

○稚貝は、海水温が26℃を超えるとへい死の危険性が高くなります。海水温を計ったり、海況自動観測ブイならびに水温自動観測ブイの水温（1ページのURL、QRコード）を参考にしながら26℃を超す日は稚貝採取をしないでください。

○稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

○稚貝採取が遅くなるほどムラサキガイが成長し、ホタテガイ稚貝とくっつきやすくなり、作業効率が悪くなるので注意しましょう。

○採苗器内の稚貝は成長や水温上昇に伴い、袋の下に落ちて溜り、異常貝率やへい死率が高くなるので、稚貝採取は早めに完了しましょう。

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

○稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。

○パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。稚貝がへい死しない分散時の中層水温は23℃以下です。分散が遅れると稚貝が成長し、過密状態になることから異常貝が多くなります。分散が遅れる可能性があるパールネットには、稚貝を少なめ（50～100枚/段）に入れましょう。

(3) 採取後の管理に気をつけましょう。

○採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。

○水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を中層以深に沈めましょう。また、立ちきり（土俵）やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。

○採取後も一部の採苗器を残しましょう。

○余剰貝は融通し合いましょう。